

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

次世代に平和をつなごう 沖縄慰霊の日に訴える 岸田政権の軍拡ストップ



村穂江利子
予定候補

社会の歩みに 人生を重ねて

その時々で癒しとなるものは異なるかもしれませんが、私の場合、歌うこと、本を読むこと、そして愛猫や植物といった命あるものと触れ合う

皆さんは、どんな「癒し」を日常的にお持ちでしょうか。

心に太陽を 唇に歌を

衆議院 島根一区 予定候補

村穂江利子

ことーこの三つが主に私を癒してくれる「アイテム」です。中でも一番の癒しである「歌うこと」は、気持ち良く発声するということ。息をいっぱい吸って声を出す。この繰り返りで、心も意識も前向きになり、疲れていた身体もなんだか軽くなっていくのは不思議です。人間の身体には、自己治癒力が備わっていることを感じる瞬間です。

好きなメロディーに気持ちを乗せて歌う。心に響く歌詞を味わいながら歌う。どちら

もいつの間にか好きになってきた行為でしたが、今回、歌うことを好きになったきっかけはなんだったかと振り返った時に、過去の一場面を思い出しました。

それは、当時の私からすれば、とても大人に見えた近所に住む高校生のお姉さんの部屋での記憶。壁にかかる色紙の言葉「心に太陽を。唇に歌を」を読み上げる小学生の私。子どもながらそのフレーズが発する希望と明るさ、そしてダイナミックな軽やかさに魅せられていたあの時の気持ち。四十数年以上が過ぎた今、あの時私は、確かに、生きる上での姿勢を教わっていたのだなと気づかされているのです。



商店街で訴える むらほ島根一区予定候補、県議、市議団ら



23日と24日、松江市内各地で日本共産党は村穂（むらほ）

軍拡ストップ、原発再稼働やめよ むらほ予定候補と県議市議が訴え

6月23日は沖縄の「慰霊の日」です。軍人だけでなく住民を含め20万人が犠牲となった沖縄での戦いが終結した日です。沖縄では沖縄全戦没者追悼式が毎年行われ、各地で慰霊の集いが行われました。

23日には川津スーパー前で、尾村利成県議、たちばなふみ市議が後援会員と共に街頭宣伝を行いました。

村穂氏は「住民を巻き込み悲惨な戦場となった沖縄での軍事基地強化は許されない。岸田首相の慰霊の言葉より、17歳の高校生の平和の詩が胸を打った。戦争でなく平和の準備を」と訴えました。

尾村利成県議は開会中の県議会で、原発再稼働問題について「不祥事続きの中国電力に県民の不信は広がっている」と質し、丸山知事は中電に対して「緊張感が欠ける」等と同意した。中電には危険な原発を扱う資格はない」と追及し、報告しました。

たちばなふみ市議は開会中の松江市議会で「健康保険証を廃止し、マイナンバーカードを押し付けに市民の不信が寄せられている。電気料金や物価高騰対策を市独自でも取り組み市民の命と暮らし守ろう」と訴えました。

24日には、黒田町などで街頭演説会が開かれ、村穂氏と尾村県議が訴えました。また、くにびき大橋近くの交差点では、村穂氏と尾村県議、舟木けんじ松江市議が支援者と共に街頭に立ち、悪法を次から次に押しつける自公・岸田政権の軍拡路線をストップさせようと訴えました。

